



経済史

について調べる



★ 関連キーワード

- 大分岐論
- 制度分析
- 生活水準論争

「Paste (ぱすて)」とは？

ぱっと分かって、すっと頭に入る、テーマ別調べ方ガイドです。みなさんの学習をサポートする、総合図書館ラーニング・サポーター（LS）による作成です。レポート作成の際などにお役立てください

1. イントロダクション

1-1. 「経済史」とは？

経済史というと、どのような学問を思い浮かべるでしょうか。経済史とは言葉が示す通り、「経済学」と「歴史学」という二つの学問の間に位置する学問です。人間の基本的な営みである経済が、どのような形で展開してきたかを明らかにし、その変化をもたらした要因や原動力を解明することを目的としています。

経済史のアプローチには、主に二つの方法があります。一つは、歴史上起きた出来事のうち、とくに経済に影響を与えたものに注目し、統計資料や史料などを読み解いて、その影響を検証することです。言い換えると、「歴史学における経済史」といえます。時代背景、関わっていた主体などを丁寧に検討し、特定の時代と場所に規定された一つ一つの事象を具体的に描き出すことで理解を深めようとします。

もう一つは、経済学の理論や分析手法を用いて、過去の社会や事象を検証する方法です。すなわち、「経済学における経済史」といえるでしょう。市場や資本主義、インセンティブといった経済学の基礎概念を中心に、できるだけ少ない要素で多様な歴史的事象を説明しようとする点に特徴があります。

これらのアプローチは対立するものではなく、相互に補完しあう関係にあります。経済史は、歴史学的な丁寧な描写と、経済学的な理論や枠組みの双方を行き来しつつ発展してきた学問と言えます。

(似たような名前で「経済学史」がありますが、こちらは主にアダム・スミスやアルフレッド・マーシャルなどの経済学者を対象とし、経済学という学問自体が辿って来た歴史を研究する学問です。なので、歴史を経済的視点から研究する経済史とは異なります。)

1-2. 学習するにあたってのポイント

先述の分類に従えば、日本で行われている経済史研究は、「歴史学における経済史」的アプローチが中心です。そのため、多くの文献では、想像以上に歴史に関する知識が前提として議論が進められていきます。はじめから暗記するほど覚えることは必要ありませんが、背景となる時代や出来事を理解していないと、内容を追うことが難しく感じられるでしょう。

ですので、学習の進め方としては、次のような段階を踏むことを提案します。

- ① まず、世界史(あるいは日本史)における時代区分を大まかに理解する(中世・近世・近代など各時代では何が特徴的で、どのような出来事があったか)。
- ② 自分の学びたい地域・世界の経済史に関する書籍を読み、全体像を掴む。
- ③ 対象とするテーマ(貿易、市場、金融など)に基づいてさらに専門書や論文を読む。

①～③の文献は以下の節で紹介するものを参照ください。①については「1-3」と「2-1」が、②については「2-2」が概ね対応しています。また、③については「2-1」もしくは「2-2」の文献の参考文献やブックリストから探すことを勧めます。

1-3. 一般向けに書かれた資料・読み物

■ [歴史学はこう考える / 松沢裕作](#)

経済史を含む歴史学にとって重要な史料を研究者がどのように読み解いているのかについて一般向けに書かれた本。トピックごとに背景説明があるのでとても読みやすいです。

【書誌 ID=2004589715】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 207||MAT

■ [歴史学のトリセツ：歴史の見方が変わるとき / 小田中直樹](#)

「すべての歴史は現代史である」という言葉があるように、歴史というのは単なる事実の集積ではなく、歴史を編む人の関心や生きている時代が反映されています。そのような歴史がどのように紡がれてきたか、「歴史の歴史」を読みやすくまとめられています。

【書誌 ID=2004551062】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 201.2||ODA

■ [原形から近代への胎動 / 池上俊一著](#)

ヨーロッパ(西洋)経済史をやる前に一度西洋史の勉強をやり直したい方、あまり勉強したことがない方におすすめです。中高生向けなのでとても読みやすいですが、それでも通読すると大変なので、気になる章を拾い読みして、必要を感じたら通して読むのが良いと思います。

【書誌 ID= 2004543310】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 230||IKE

■ [市民革命から現代へ / 池上俊一著](#)

前掲の『原形から近代への胎動』の後編です。こちらも必要に応じて読むのが良いと思います。

【書誌 ID= 2004543309】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 230||IKE

■ [シン・日本史見るだけノート：小中学生が学んでいる最新の定説 / 本郷和人監修](#)

日本史の事項を覚え直すと言うより、考え方をサッと学ぶのに向いています。イラスト付きの見開きでまとまっているので、タイトルの通り見るだけですぐに読めると思います。

【書誌 ID= 2004607005】外国図-4 階開架 210.1||80

■ [日本近代社会史：社会集団と市場から読み解く1868-1914 / 松沢裕作著](#)

近世から近代に移り変わることが具体的にどんな変化が伴うのかを、農村や都市労働者といった社会集団から読み解いています。一般向けというには内容は専門的ですが、とても読みやすいです。

【書誌 ID= 2004545635】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 210.6||MAT

2. 学習用資料

2-1. 事典・ハンドブック 類

■ [社会経済史学事典 / 社会経済史学会編](#)

経済史で扱われているトピックについて見開きで簡単に確認できます。レポートや論文を書き始める前に、そもそもトピックについてどのようなことが関心事として扱われているのか確認するのに最適

です。

【書誌 ID=2004521135】総合図-書庫棟 研究用図書 332.01||SHA

【書誌 ID=MC00353458】オンライン資料

■ [論点・西洋史学 / 藤井崇 \[ほか\] 編著](#)

タイトルの通り、歴史事項を単に説明したものではなく、「論点」をまとめたものです。歴史の授業で習った十字軍や世界恐慌などのテーマが研究者によってどのように議論されているかがまとめられています。

【書誌 ID=2004493109】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 230||FUJ

2-2. 最初に読むべき資料：教科書・古典

■ [経済史：いまを知り、未来を生きるために / 小野塚知二著](#)

市場や労働者、資本などの現代社会の基盤となっている経済システムがいかなる経緯をたどって形成されたのかについて、その概念から丁寧に説明してくれています。経済史的に歴史を理解するとはどういうことかを理解するためにまず始めに読んでほしいです。

【書誌 ID= 2004452579】総合図-書庫棟 研究用図書 332||ONO

■ [現代社会を考えるための経済史 / 高橋美由紀編著（第2版）](#)

人口や貨幣、都市などテーマごとに短く平易にまとめられています。史料が随所で用いられており、経済史研究が実際にどのようなことをしているのかをうかがい知ることができます。

【書誌 ID=2004606864】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 332||TAK

■ [コア・テキスト経済史 / 岡崎哲二著（増補版）](#)

経済理論をもとに歴史を考えたい人に向けた入門書です。通史的な理解はできませんが、経済学にとって重要な制度や動機付けといった観点を中心に歴史を読み解いています。歴史研究における実証に興味のある方は一読すべき一冊です。

【書誌 ID= 2004410393】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 332.01||OKA

■ [概説世界経済史 / 北川勝彦 \[ほか\] 編（改訂版）](#)

日本、ヨーロッパ、アジア、アフリカの世界の各地域の経済史をコンパクトに学べます。また、経済史の見方(理論)にどのようなものがあるかも概観することができます。

【書誌 ID= 2004541795】総合図-書庫棟 研究用図書 332||KIT

■ [エレメンタル欧米経済史 / 馬場哲 \[ほか\] 著](#)

一章が約 10 ページ前後なので内容は厳密でありながら読みやすいです。この本に限りませんが、地名が多く出てくるので、地図を確認しながら読むとより整理できるでしょう。

【書誌 ID=2004238141】総合図-書庫棟 研究用図書 332.3||BAB

■ [西洋経済史 / 奥西孝至 \[ほか\] 著](#)

全体的に読みやすいですが、イギリスの産業革命やドイツの工業化など、19 世紀前後の記述が特に充実しているので、そのあたりを詳しく知りたい方におすすめです。

【書誌 ID= 2004156882】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 332.3||OKU

■ [日本経済史 / 武田晴人著](#)

注やコラムが充実しており、様々な観点から学ぶことができます。また経済史のテキストには珍しく、章ごとに復習課題に解説がついており、独習にも向いています。

【書誌 ID= 2004467897】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 332.106||TAK

■ [概説日本経済史：近現代 / 三和良一, 三和元著 \(第 4 版\)](#)

バブル崩壊以降から東日本大震災やアベノミクス、コロナ禍までも扱っており、幕末から現代までを通観して学びたい方にお勧めです。

【書誌 ID= 2004526599】総合図-書庫棟 研究用図書 332.106||MIW

2-3. 最新情報が確認できる資料：主要雑誌・年鑑・Web ページ

■ [The Economic History Review](#) 【電子ジャーナル ISSN= 1468-0289】

近年だんだんと数量経済史的な研究が多くなっていますが、伝統的には歴史学的な経済史研究が中心の雑誌です。年 4 回刊行されています。

【書誌 ID=OJ00291179】オンライン資料

■ [The Journal of Economic History](#) 【電子ジャーナル ISSN= 1471-6372】

前掲の Economic History Review に比べると経済学寄りで、実証色が強いジャーナルです。とはいえ、あくまでも原則なので、上述の Economic History Review も両方確認すると良いでしょう。こちらも年 4 回刊行されています。

【書誌 ID=OJ00293050】オンライン資料

■ [社会経済史学 / 社会経済史学会 \[編\]](#)

日本における経済史研究の最新動向を知ることができます。こちらも年 4 回刊行されています。いずれの雑誌も論文を全部読まずとも、タイトルを概観して気になったもののアブストラクトを読むだけでも勉強になります。

【書誌 ID=3001037824】総合図-自動書庫

本文中で紹介している図書・雑誌について

図書名・雑誌名の後ろに「書誌 ID」(10桁の数字)の記載があるものは大阪大学で所蔵しています。この10桁の数字で大阪大学 OPAC(蔵書検索システム)が検索できます。

